

## 序章

多摩美術大学は、多摩帝国美術学校を創始とし、1953（昭和28）年に多摩美術大学として開学した。開学以来、広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身に付けた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成することを目的として、教育研究の充実と高度化を図ってきた。東京都八王子市（八王子キャンパス）と世田谷区（上野毛キャンパス）に2つのキャンパスを有し、2014（平成26）年度には大規模な改組転換を行って美術学部10学科5専攻、美術研究科は博士前期課程（修士課程）5専攻、後期課程（博士課程）1専攻を置き、4,479名（2014年5月1日現在）の学生が在籍する。

本学における自己点検・評価活動は、教育充実検討委員会の中に、学内改革・大学評価申請本部を置き、教務部長・教務部事務部長が中心となりあたっている。

従前には、教育充実検討委員会 自己点検・評価部会において「多摩美術大学 1997-98-99（2000年度）」、「多摩美術大学 2000-2003（2004年度）」と自己点検・評価を行ってきたが、2007（平成19）年度の認証評価申請を機に大学基準協会加盟申請本部を置き、「総合的点検・評価」の位置付けを明確にした。2007（平成19）年度の認証評価申請から続く、本点検・評価方法は定着している。これらの点検・評価を包括する活動のほかに、学生による授業評価や教員相互の授業参観等のファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）、各種委員会や部課等を通じた改善など、階層を以て取り組んでいる。

2015（平成27）年度に創立80周年を迎えることになり、大きな節目を迎えることとなった。この記念すべき時に、2008（平成20）年度の財団法人 大学基準協会（現：公益財団法人 大学基準協会）の加盟申請以来7年後の第2期大学評価に臨むこととなった。これまで本学が取り組んできた全学的、組織的な自己点検・評価活動について外部からの評価を受け、その結果を今後のPDCAサイクルの中に反映して今後のさらなる推進力にしていく所存である。

